

ヘルペス脳炎による健忘症例への家庭復帰支援

Prospective memory and IADL training for a herpes simplex encephalitis Patient

近江千鶴子*

Key Words : ヘルペス脳炎, 展望記憶, IADL, 家庭復帰, 作業療法

はじめに

ヘルペス脳炎による健忘症例を経験した。生活適応のための代償手段獲得や展望記憶課題の成績向上について、オペラント条件づけや、それを支える神経機構が関与しているのではないかと考えたので、考察を加え以下に報告する。

1. 症例紹介

60代,女性。X年5月18日頭痛,発熱,意識障害,(JCS3),認知機能障害,失語などが見られ脳波,MRI,髄液検査にてヘルペス脳炎と診断される。抗ウイルス薬にて治療し,作業療法,理学療法,言語聴覚療法開始となる。同年6月22日,リハビリテーション継続目的で当院に転院し,8月1日に自宅退院。外来継続となる。

2. 画像所見

頭部MRIにて,左側優位に両側頭葉内側および

海馬周辺に病変を認めた(図1)。

3. 神経心理学的所見

MMSEは8/30点でTMT-Aは122秒,Bは実施不能,RCPMは25/36点,コース立方体組み合わせテストはIQ54であった(表1)。病棟内ADLは自立。発症後に起こったことが覚えられない前向き健忘と時間的勾配のある逆向性健忘が見られ,軽度の感覚性失語を呈していた。

4. プログラム

入院・外来のOTにて,展望記憶の改善,代償手段の獲得,生活管理能力や役割遂行能力改善を目標に認知リハビリテーションを実施。石丸ら(2011)を参考にしたメモリーファイル訓練,生活記録表の活用,南雲ら(2001)を参考にした展望記憶訓練,IADL訓練を行った。

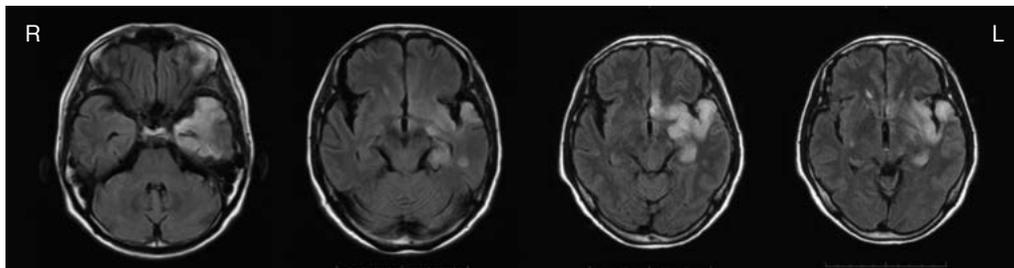


図1 頭部MRI T2 FLAIR 発症約1ヵ月後の画像

* 片倉病院 Chizuko Omi : Katakura Hospital

5. 経 過

メモリーファイル訓練では、生年月日などは正答率が上がったが、病名などはファイルでの確認を要した。生活記録表は、開始当初は記載漏れや錯書がみられ、訓練時に修正していたが、入院後期には記載漏れや錯書は減少した。展望記憶訓練はインターバル後の想起課題としてトランプの選択、物品の選択、動作の再生の3課題を設定し、外来まででインターバルは13分まで伸びた(図2)。自主的な展望記憶課題のメモの確認、課題の想起リハーサルが定着し、存在想起、内容想起とも、正答率が上がった。入院後期には調理訓練や高橋ら(2009)を参考にした外泊訓練、外来では外出訓練も行った。

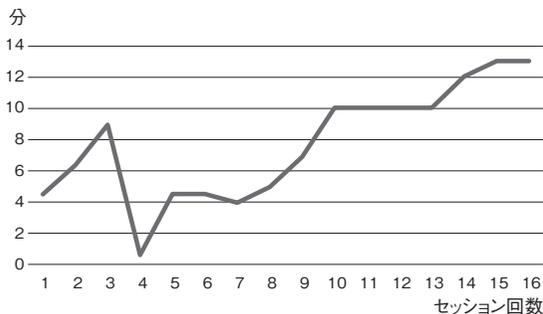


図2 展望記憶訓練の経過

各セッションの最終インターバルを示す。セッションは入院・外来を通して16回実施。セッション4までは課題設定のためのアセスメント期。それ以降は順調にインターバルが漸増していった。

表1 神経心理学的検査結果の推移

	X年Y月 +1ヵ月	X年Y月 +3ヵ月	X年Y月 +5ヵ月
MMSE	8/30点	23/30点	24/30点
RCPM	25/36点	31/36点	28/36点
Kohs立方体組み合わせテスト	IQ54	IQ77	IQ88
TMT-A	122秒	84秒	85秒
TMT-B	実施不能	238秒	178秒
RBMT	標準プロフィール	10/24点	7/24点
	スクリーニング	5/12点	3/12点

6. 結 果

MMSE, Kohs立方体組み合わせテストは境界域レベル, RCPMは年齢平均以上への改善が見られたが, RBMTは大幅な改善は見られなかった(表1)。在宅復帰後は, 家事全般や留守番が可能となった。

7. 考 察

症例は側頭葉, 海馬に病変があり, 記憶定着における海馬レベルのリハーサルが困難であったにも関わらず, 展望記憶課題や代償手段の利用定着が見られた。これは側頭葉, 海馬以外の神経機構を利用した学習の成立が示唆される。

生体の行動変容に影響を与える要因として, オペラント条件づけによる学習が知られている。この学習の成立, 維持に関わる神経学的な基盤として, 前頭前皮質と背側線条体を結ぶ神経回路の関与が示唆されている。

本症例の場合, 生活記録表の記入自体が, 展望記憶に対するリマインダーとして働き, メモ習慣の般化, 課題の自発的リハーサル行動につながり, 展望記憶の存在想起, 内容想起の成績が向上した。この一連の行動の学習は, 課題成功による達成感やセラピスト, 家族の賞賛などが強化子となり, オペラント条件づけの成立によるものと考えられる。

文 献

- 1) 石丸敦彦, 穴水幸子, 藤森秀子, ほか: 脳炎健忘症例へのアプローチ—self awarenessの向上を目指して. 認知リハビリテーション, 16(1): 15-24, 2011.
- 2) 南雲祐美, 加藤元一郎, 梅田 聡, ほか: ヘルペス脳炎後遺症による健忘例に対する展望記憶訓練の効果について. 認知リハビリテーション, 2001: 74-80, 2001.
- 3) 高橋理夏, 田畑絵美, 村上 篤: 回復期リハビリテーション病棟における高次脳機能障害者への「統合的リハビリプログラム」の試み—見当識障害, 注意障害, 記憶障害を中心に—. 認知リハビリテーション, 14(1) 78-85, 2009.